



更生保護

みちのく

電子版

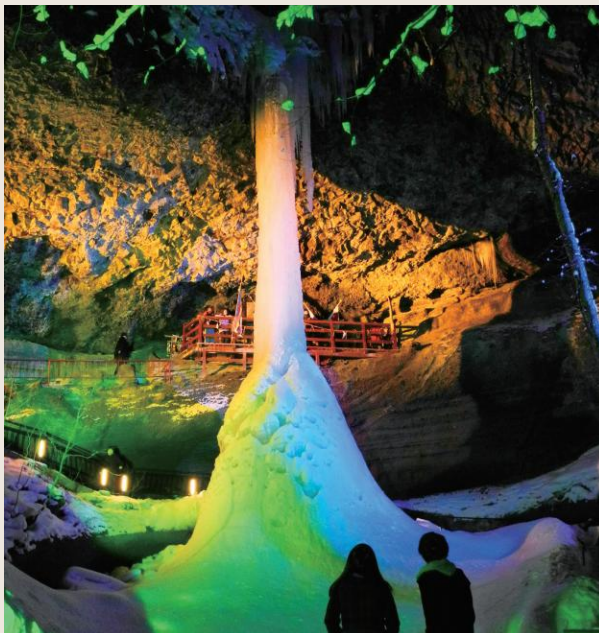
令和8年 冬号

発行者：東北地方保護司連盟
仙台市青葉区片平1丁目3番1号
仙台法務総合庁舎
電話 022(221)3536
発行人：天内 修
印刷：田端印刷株式会社

今号の記事

- 特集 第32回東北地方更生保護大会
- 各県更生保護施設の現状報告

2面
6面



青森県中津軽郡西目屋村
豊凶を占う祭りが行われる滝「乳穂ヶ滝」

写真提供…五所川原地区保護司会 木村 司

樹齢300年級の杉の大木に囲まれた境内、約33メートルの高さから滝がさらさら降るように落ちます。毎年2月の第3日曜日には「乳穂ヶ滝水祭」が開催され、結水した滝の太さ、形状等によってその年の作物の豊凶が占われる「豊凶占い」や「柴灯護摩祈禱」「火渡り」が行われます。寛政8年（1796年）に菅江真澄がここに詣でて「豊年の微も水もふる雪も 千束に氷れ 新穂のたきなみ」と歌をよみのこしています。

第32回東北地方 更生保護大会そとろ書



東北地方保護司連盟
会長
天内 修

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかに新年をお迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。昨今は保護司新任の上限年齢の撤廃、任期を3年に延長と保護司法等改正があり、何かと落ち着かない1年でした。そのような状況にありながらも、当連盟の事業運営につきまして、多大なる御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年11月26日第32回東北地方更生保護大会、併せて第45回青森県更生保護大会がリンクステーションホール青森（青森市文化会館）で開催。オープニングとして五所川原第一高等学校津軽三味線部の演奏、前保護局長押切久遠様の御講演「良い知らせと悪い知らせ」、そして式典、私、天内が式辞、辻裕子東北地方更生保護委員会委員長の挨拶、顕彰、次回開催地代表挨拶、万歳三唱で閉会となりました。

一昨年からの会場の設定、開催可能会場は一つ、夏から秋にかけて地域の文化的発表会等が目白押しで日程的に会場を押さえるのに一苦労、乗用車やバスの駐車場等を探すことに難儀。二度の大会実行委員会と各担当説明会。更生保護委員会、保護観察所、地保連、県保連それぞれ事務方の数度の打ち合わせ。苦心を一つ上げれば、ご来場者の入退出時の混雑を避け、流れるようにと力を注ぎました。大会前日のリハーサルそして大会当日、更生保護委員会と保護観察所の多くの職員の方々にもお力添えをいただき大変助かりました。

これまで東北地方更生保護委員会、青森保護観察所、東北地保連事務局、青森県保連事務局、青森地区更生保護女性会、青森地区保護司会等々皆様にご協力とご支援をいただき、無事終了することができ皆様へ感謝申し上げます。また、ご参加いただいた各県各地区の保護司や更生女会員はじめ更生保護関係者の皆様に感謝申し上げます。

今冬はインフルエンザが猛威を振るい患者増とのこと。皆様は如何でしょうか。皆様のご健勝でそれぞれの地域で安全安心に向けご活躍されることをお祈りいたします。

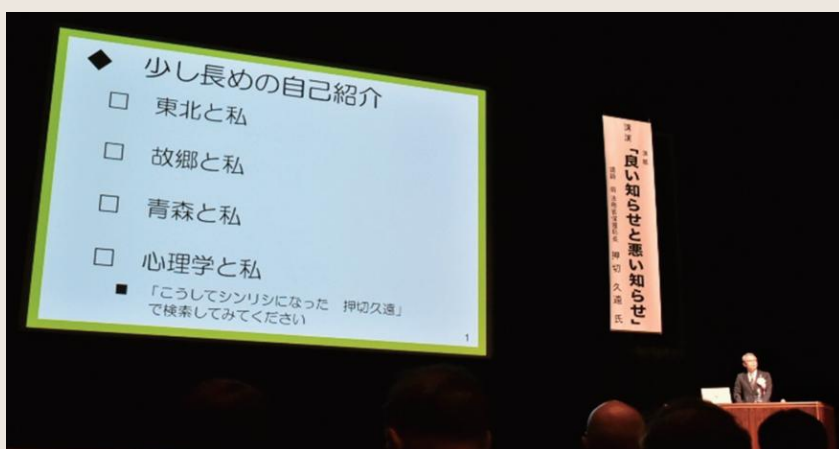


特集 第32回東北地方更生保護大会



学校法人舘田学園五所川原第一高等学校
津軽三味線部による清興

平成15年創部。全国高等学校総合文化祭出場13回、
青森県高等学校総合文化祭郷土芸能部門最優秀賞10
回、津軽三味線全日本金木大会団体の部優勝7回、
津軽三味線世界大会団体部門グループB優勝1回の
実績を誇る。



前法務省保護局長押切久遠氏による講演（講演の要旨は4面をご覧ください）



東北地方保護司連盟天内会長による式辞



東北地方更生保護委員会辻委員長による挨拶
（同委員会野尻委員代読）

特集 第32回東北地方更生保護大会



東北地方更生保護委員会委員長表彰伝達



東北地方保護司連盟会長表彰授与



東北地方更生保護女性連盟会長表彰授与



受表彰者代表謝辞



万歳三唱

東北大会の様子は青森県更生保護ネットワークのYoutubeチャンネルで御覧いただけます。



特集 第32回東北地方更生保護大会

講演 (要旨)

講師 押切 久遠 氏 (前法務省保護局長)

演題 良い知らせと悪い知らせ

◆ 良い知らせと悪い知らせ

現代の思想家であるケン・ウィルバーは、人の心理的な発達には良い知らせと悪い知らせの両方を運んでくると言った。確かに私たちは、様々な体験や学習をすることによって自分の精神世界を広げ豊かにしていくことができる。しかし、それに伴って悩みが深まり、様々な不安が出てくるということも事実である。

◆ ふたつ良いことと悪いもの

また、臨床心理学者の河合隼雄さんは、ふたつ良いことと悪いものよとして、ひとつ良いことがあると、ひとつ悪いことがあるとも考えられると述べている。何か悪いことや嫌なことがあるとき、よく目をこらしてみると、それに見合う良いことが存在していることもある。悪い知らせが前もって見えてくると、少なくともそれを受け取る覚悟ができるし、人間は同じ苦痛でも、覚悟したり訳がわかっていたりしていると、相当に忍びやすいものであると河合さんは述べている。物事を一面的に見ないこと、心を柔らかくしておくことの大切さを教えてくれる言葉ではないかと思う。

◆ 良い知らせにとられる心、悪い知らせを中和しようとする心

悪い知らせを先取しすぎてしまう「過度の予期不安」は、現代を読み解くキーワードの一つではないかと思う。予期不安が過度なものになると、人は身動きが取れなくなってしまう。様々な情報に社会にあふれているものの、実際の人と人とのつながりが薄れてきたところに、この過度の予期不安が起こりやすいのではないかと思う。

一方で、人は矛盾する不協和な認知(考え)を抱えると、それを矛盾なく協和するような状態にしようとする。これは、悪い知らせを自分の中で良い知らせに変えて心のバランスを取ろうとし、メンタルヘルスを守ろうとする心の働きではないかと思う。悪い知らせに打ちひしがれないでそれを中和しようとする力は、人がより健やかに生きていく上で大切なものだとも思う。

◆ 悪すぎる知らせにどう向き合つか

作家の曾野綾子さんはエッセイの中で、自身が家庭内暴力を受けるという悪すぎる知らせに対して、そのおかげで小説が書けた、人生の目標を早くに定めて達成することができたと述べている。保護観察対象者の中には家庭環境が非常に厳しい中で育ち、虐待を受けてきた人もいる。たとえ虐待を受けても犯罪や非行をしない人の方が圧倒的に多い現実の中で、なぜ彼ら・彼女らは犯罪や非行をするようになってしまったのだろうか？

曾野さんの場合は悪すぎる知らせをバネにして良い知らせにつながっていったのだが、犯罪や非行をした人は、過酷な環境で育つうちに、悪すぎる知らせに打ちひしがれ、認知が凝り固まってしまっている面があり、特に、自分は悪くない、自分の責任ではない、という考えを持ちやすい。それは自分の心のバランスをどうとするとする認知であるが、犯罪や非行という行動の改善につながりにくい認知でもある。犯罪や非行をして、被害者など様々な方に迷惑をかけたわけだから、少しでもその責任を自覚させるための指導・支援を行うことが非常に大事だと思う。

◆ 学習された無力感と自己責任へ直面

しかし、人が自分の心を守ろうとする働きの強さを考えると、その人に自分の非や責任を認めるよう促すことは容易ではない。心理学者であるセリグマンが「学習された無力感」という言葉を用いたが、犯罪や非行をした人の中にも、この無力感を抱えている者は多く、そのような状態のままに責任や問題に直面することはなかなか難しい。

そこでまず、犯罪や非行をした人が無力感から脱け出し、少しでも自己肯定感や自信を持つことができるように働きかけることが大事である。そのために、保護司の方々による受容・助言・励みや、官民一体となった就労・住居・福祉の支援等が大きな意味を持つ。その中で対象となる人に力がついてくれば、自分の問題や責任に直面することがより可能になってくる。自己責任の自覚、つまり認知の変化は、犯罪や非行から立ち直るために大切であり、真の更生、つまり再び犯罪や非行をしないだけでなく、被害者に対してきちんと謝罪や被害弁償を行うということにつながるものがあると思う。

◆ 人とのつながりの大切さ

さて、人生においては、良い知らせが続くこともあるし、悪い知らせが続いてすぐ落ち込むこともあるが、そこで大切なのが謙虚さではないかと思う。良い知らせに得意になって周りが見えなくなる、人とのつながりが失われてしまう。悪い知らせが来て苦しいときには、誰かに話を聞いてもらったり、支えてもらったりして何とかしのいでいく。良い知らせがあったときには、誰かと一緒に分かち合う。皆さんは、そういった人とのつながりの大切さがわかるからこそ、地道に更生保護の活動を続けてくださっているのではないかと思う。

犯罪や非行をした人と相対していると、本人が荒れていたり反応が薄かったりして、どんな働きかけも通じないように感じることもある。しかし、あの時にあの人が言ってくれた言葉がずっと心に残っていた、今になると非常に支えになっている、などと後になって気付くという人がいる。新たな出会い、新たなつながりによって、今まで凝り固まっていた考え方、物の受け止め方が柔らかくなっていく、ほぐれていくということがきっとある。人とのつながりを大切にしながら、今後とも共に歩みを進めさせていただきたいと願う。

特集 第32回東北地方更生保護大会

姿なき報酬

青森県保護司会連合会

常務理事 樋口 修三

ばんざーい!! ばんざーい!! ばんざーい!!

「本大会も、皆様の御協力によりまして、盛会のうちに終了することができましたことを、厚く御礼申し上げます。」司会者の落ち着いたアナウンスが場内に響き、すぐさま「お疲れ様でした。」隣にいる動画撮影の外部スタッフに声がけ。この後の祝賀会・慰労会の準備に進むことになる。

大型バスで帰られる方には混雑を防ぐため、順番にバスの出発時間をアナウンスで知らせることになっていたが、ほぼ一斉に立ち上がったため響かない。開催日が迫る中、幾度か変更した丁寧な長めのシナリオ通りには進まなかった。青森保護観察所・相馬保護観察官がまとめたシナリオで、そのたびにメールを私にも送っていたのだ。

令和7年4月、打ち合わせが始まる。その後オンラインや実行委員会での協議で些細なところまで詰めていく。私が記録・動画撮影しているのは毎年、県大会のアーカイブをYouTubeで配信しているの、この更生保護大会もアーカイブで配信することとしている

ためである。可能であればライブ配信が理想ではあるが、見えない電波が突然遮断され、配信が止まってしまい手の施しようがなくなるのがとても心配なのだ。後日の配信にしている。過去に更生保護関係のライブ配信の中断があつたので、それがよみがえる。

また、一番心配だったのは、青森地区保護司会の保護司を中心に更生保護女性会も含めスタッフとして何人参加していただけなのか。ということだったが、多くの皆さんが手を上げていただいたので感謝に絶えません。

仕事でもないのに、会議や打ち合わせ、そして実行と自分の人生の中の持ち時間を誰かの幸せのために動くこと。大会スタッフとして稀な体験をしたことは、姿なき報酬が心を満たしていると思っているが、その姿が何か、誰か教えてもらいたい。

他地区の皆様へ。

こんな素晴らしいことには、進んで手を上げて体験してもらいたい。姿なき報酬がきつと授かるはず。

スタッフの皆様
本当にお疲れ様でした。



記念品（青森ひばと黄色い羽根）の根付



次期東北大会 開催地代表として

岩手県保護司会連合会

会長 山内 隆文



先人たちの努力により紡がれ、長い歴史を有する「東北地方更生保護大会」であります。次期第33回大会は、4年後の令和11年、岩手県で開催される予定となっております。

令和11年は、昭和24年に制定された「犯罪者予防更生法」が施行され、更生保護制度の礎が築かれてから80周年の年に当たります。

また、岩手県においては、第55回岩手県更生保護研究大会が盛岡市で開催される予定となっております。このような節目の年に岩手県において東北地方更生保護大会が開催できますことは望外の喜びであります。

御案内のとおり、先の第32回大

会は青森県において開催され、東北管内の更生保護関係者千人余が参集したところであります。

オープニングの五所川原第一高等学校三味線部による演奏は哀愁を帯びつつも力強く、また、押切前保護局長による「良い知らせと悪い知らせ」と題した講演は、押切前局長の体験と学びに基づく内容であり、演奏も講演も聞く人の心に響くものであったと感じたところであります。

その後、式典の部に移り、式辞・顕彰・祝辞・宣言採択・挨拶等が行われたところであります。タイトなスケジュールにもかかわらず進行はスムーズであり、また大会そのものの構成や内容も素晴らしい、次期開催県として、大いに参考にさせていただいたところであります。

今後、次期大会に向けて、更生保護関係者はもとより、関係機関と連携・協議を重ねながら、本県の特徴も生かした大会となるよう準備を進めてまいりたいと考えております。

皆様方のご来県を心からお待ち申し上げ、挨拶とさせていただきます。

各県更生保護施設の現状報告

青森

更生保護施設ブラザあすなろ
施設長 笹森 康之

今回で9回目を迎えた「青森地区保護司OB会」主催のもちつき会！

特に今回はフォローアップ対象者5名を迎え、入所者7名の総勢12名が参加し、楽しく開催されました。身近でご支援くださっている皆さまと、「餅つき」そして「会食」ができました。これからも、皆さまのご協力をいただきながら、いずれ迎える一般社会での自立生活にスムーズに溶け込めるようつなげていきたいと思ひます。



岩手

更生保護法人岩手保護院
理事長 吉田 大信

新しい年を迎え、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から岩手保護院の活動に対する多大なご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、昨年は岩手保護院全面改築工事が始まり、多くの方々からの寄付金も集まりつつあり、なんとか予算的な目途もたちつつあります。本当に心から感謝申し上げます。

今年の3月15日には新しい施設が完成し、「人々の尊厳や価値が守られ、誰一人取り残されない社会の実現」、「犯罪者を出さない、再犯させない、被害者を出さない、安心安全な明るい社会の構築」という更生保護の目指す社会の実現のため、新たな気持ちで更生保護活動を継続させてまいります。

本年も、皆様方からの益々のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

宮城

更生保護施設宮城東華会
施設長 佐藤 凡人

更生保護女性会の皆様から夕食会を長年提供いただいておりますが、令和六年度からは昼食会も県下北から南まで多種多彩な献立を提供いただき、寮生の腹だけでなく心も満たしてくださり誠にありがとうございます。感謝する立場にありながら、更生保護女性会の皆様からは「来てよかった。ありがとう。」と言葉をいただきただただ恐縮するばかりです。

さて、当会では、寮生に配慮しつつ、地域に開かれた更生保護施設を目指し、一般の皆様に開放しています。当会は仙台市太白区越路に所在していることから、越路ねこ部等が主催する「越路ねこ祭り」が今年度で3回目を迎え170人が来場しました。このことで当会が理解される施設となるかは別とし「故きを温ねて新しきを知る」を糧に支援される側だけでなく、地域の中で協力やお返しする側に立てるよう努めてまいります。

秋田

更生保護施設秋田至仁会
施設長 小玉 勝康

令和7年8月4日（月）、秋田市八橋の全良寺において、秋田至仁会の前身、秋田出獄人保護所の創設者であり、秋田県における「更生保護の父」と称される川村養助氏の没後120周年記念供養祭が墓前で行列、当法人の鈴木理事長ほか役職員等総勢25人が参列しました。

川村氏の命日は8月4日であり、供養祭は平成21年から毎年行われ、今年は没後120周年という記念の年に当たり、秋田保護観察所の富田所長ほか県内の更生保護団体の代表者等も参列し、副住職の読経に続いて参列者が焼香し、川村氏と御家族の冥福を祈りました。

そして、供養祭の最後に、当法人の目黒理事から創設者川村養助氏の墓碑と顕彰碑が建立された経緯等について説明があり、川村氏の出獄人保護（更生保護）の精神と足跡を風化させないよう永く継承していくことについて改めて理解を深めました。



山形

更生保護施設羽陽和光会
施設長 堀江 朝好

更生保護施設羽陽和光会の現状について

定員20名に対し、令和7年4月から11月末までの収容率は、約60%とここ数年では一番良い数字となっている。

一方、高齢者や知的・精神障がい者の入所率が高止まりを見せるなど処遇については施設だけでは課題解決が困難な場合もあることから、更生保護団体や医療・福祉関係機関とのより一層の連携協力が必要となっている。

地域との関係では、入所者の公園清掃活動や除雪活動、防災訓練への参加等を通して協力関係を高めるとともに、このことが、将来社会の一員として自立した生活を送る上で役立っているものと思われる。また、医療機関からの健康講座の受講やAEDの操作方法を学ぶなど知識の習得にも努めている。更には、月2回開催している更生保護女性会との昼食会を通して、入所者同士の和やかな雰囲気づくりにも取り組んでいる。

福島

更生保護施設 至道会
施設長 佐藤 利松

「至道会」は、福島保護観察所管内の更生保護施設として、明治22年に設立し136年の歴史があります。平成29年6月に県内更生保護関係者の皆様のご支援により現在地に新築移転し8年を経過いたしました。定員は男性16人、女性8人、合計24人です。

特徴としては、東北で唯一の女性も収容する施設で、全国でも数少ない男女併設施設です。また、全室個室で浴室もユニットバスによる一人入浴など個人のプライバシーを尊重する近代的設備を取り入れた施設となっております。場所は福島刑務所・刑務支所（女子刑務所）と隣接した場所でございますので、東北管内の更生保護関係者の皆様が近隣に御用向きの折は、お立ちよりいただければと存じます。



【お詫び】 令和7年秋号2ページ「みちのく通信」の執筆者の肩書きに以下のとおり誤りがありましたので、訂正の上、お詫び申し上げます。

（正）岩手地区更生保護女性の会副会長

（誤）葛巻町更生保護女性会会長